沿海異聞

五

805
17
特別
十七ノ百七第四棚

別14
8

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8

ガラス使用

東京都立図書館
舊幕引繼書

沿海異聞 全 上

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8
ガラス使用

沿海異聞巻三上

一 寛政四年季南部津軽松前家ノ
　 差出書留　附録

一 東蝦夷風説　附録

一 唐太島地理之概　魯齊亞國聞書
　 今井元安

一 幸実ノ附添松前ノ
　 物語シ趣　附　司馬江漢説

一 ヲロシヤ國ヨリ賜ハル信牌ノ字
　 未口醫師　栗田元丹

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8

ガラス使用

一長崎浦船

一松号志乃國之

寛政四子年

南部
津軽　家臣若生書留
松前

十一月ヨリ

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8

ガラス使用

一御用番松平加賀守殿江差越候御書附写

仕勇之助松平勇之助

此度ヲロシヤ人伊勢國ニ漂流人差送ニ蝦夷地江被差
遣候ニ付而ハ為御用御目附石川六右衛門村上大学松平
勇之助人数用意被仰付候間其心得ニ而支度可致候
尤御用ニ付而ハ急速出立被致候様ニ被仰渡候
人数用意之儀ハ追而可申渡候

松平勇之助

十月南部家之郎ゟ差出

奉行仙賢

此度ヨロシヤ人伊勢國ゟ漂流人差送ニ付御用馬貳疋石川六右衛門ゟ村上大学杉本ニ而請取ニ相渡ス人数用意致置候様ニ申越候ニ付人数用意致置候処ニ而請取ニ相渡ス尤通行之節ハ御用馬ニ而送届候様ニ申渡ス

南部家之郎

東鰺ヶ沢御陣屋
尾張源右

者沢ゟ組ニ而ハ鉄炮等ハ組ニ而ハ鉄炮等ハ組ニ而ハ鉄炮等ハ

一彼地ニおゐて彼ニ送り申用意之有之筈ニ候
（以上三行下連）
一弁外ニ彼方ニ彼も可差送品有之候ハヽ
（以上三行下連）
右之趣可申達候
（以下連）
十一月四日
尾張添長

覚

一神奈川ニ於て人数被差出候ニ付完人数之通
（以下連）

一右人数武具用意之儀
（以上三行下連）
一松前ニ於て海防ニ付人数被指出候ニ付
（以上三行下連）
一右人数之内病人ハ別ニ
（以

十一月廿日

覺

一 津出之儀最前申上候通ニ候得共猶又左之通
○相改之上津出
一 出羽庄内人数繰合之事
○別紙書面之通
一 御米之儀最前通ニ而ハ津出差支ニ付左之通書面ニ
而差出候様ニ可致候事
○書面之通ニ
御座候

津出出役
田中九治馬

十一月廿日

石川役所
一 用人弐人 一 醫師壱人
一 侍士三人 一 足軽弐人
〆三拾四人

村上大学召連人数
一 用人弐人 一 侍四人
一 足軽弐人 一 中間拾八人
〆弐拾弐人

津出出役
田中九治馬

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8

ガラス使用

右之通ニ付
右書面津軽家別紙之通ニ
賞
御奏不称松前奉行ニ出浜海之
土俗教化方并蝦夷地
御開ニ付而呼出
石川松浜村
村上大学秋
御用ニ付而呼出
松前雲州助家来
横井関兵馬
彩谷六兵馬
一
御奏不称松前奉行ニ出浜海之
土俗教化方并蝦夷地
御開ニ付而呼出
石川松浜村
村上大学秋
御用ニ付而呼出
松前雲州助家来
横井関兵馬
彩谷六兵馬
一
御奏不称松前奉行ニ出浜海之

成候様取計候事　　書面之通相心得可申事

一右御船江相詰候者人数先達而御届申上候人数之外ニ
但し作料として米人数ニ而五人扶持被下候
右之外御船江乗組候者人数
并ニ米高書面之通ニ而相違無之候ハヽ
○
右人数之内ニ而病気ニ而引取候者
并ニ病死之者有之候ハヽ
其段早速可申出候
一於御船中瘧湯煎薬之儀
書面之通取計可申候事

▲書面之通相心得可申事

一御船江被下候内
⊠若年寄別段之通
一御作料之内於船中瘧湯煎薬
⊠書面之通相心得可申事

一御定員外ニ而乗組候者
并ニ病死之者有之候ハヽ
◎書面之通相心得可申事

一在府中之儀ハ
於船中瘧湯煎薬出来候

書面ニ通ニ致シ
右ニ趣ニ同意ニ付連印ニ及ニ
十一月八日
十月十日ニ出ル即刻海
津藩出勤ノ内
四年九月ニ
覧

一扣ニ
右ニ組ニ
右扣ニ添ニ
ニ付ニ

一右扣ニ先ニ
お通ニ
供人数ニ
右ニ通ニ
十一月 九日

一去春三月西那奥地ニ
御六月ニ
ニ
一両ニ

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8

ガラス使用

十一月十二日

松本若狭守家来
横井関兵衛
新谷六郎馬

松本勇助家来
横井関兵衛
新谷六郎馬

御答書

一 公儀於御勘定所御渡し被成候節、御請書差出候様ニ仕候ハヽ、御渡し被成候節、御請書差出候様ニ仕候ハヽ、

右之通ニ而ハ、

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8

ガラス使用

斗お食ひる運送お設ける事ニ候ニ付而ハ
客ニ而ハ時ニ臨ミ柄杓ニ而水お汲ミ
飯米ニ而飯ニ方ニ而ハ
ニ而ハ中人ニ而ハ
人数ニ而ハ
一船通行ニ付及難渋ニ候処
お免ニ而ハ
三雲中ニ而ハ
氷海ニ而ハ

氷海ニ而ハ洲崎ニ而ハ
ニ而ハ
難渋ニ候ニ付
又ニ而ハ

一江戸ニ而ハ
ニ而ハ
住場ニ而ハ
通路ニ而ハ
通行ニ而ハ
通ニ而ハ
ニ而ハ

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8

ガラス使用

[illegible]
仕軍役等之操合ニ而御知行
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

十一月八日

十一月十二日松前箱館ヨリ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 鉄炮 弐拾挺
　　右者 従
　　公儀
一 弓 拾張
　　右者 従
　　公儀
右之通 組合人数 定
　　場 ニ 可
一 者 従 騎 之 外 ニ 同 行 候 者 共
一 切 無 人 数 差 添 申 間 敷 候
右之趣 可 相 心 得 候 以 上

　　巳 正 廿 七 人
　　巳 正 廿 六 人

十一月廿四日

南部美濃守 内
加島安兵衛

△
鉄炮 弐拾六挺
弓 弐拾張
　　右 従
　　公儀
長柄 弐拾本
鉄炮 組合 二拾人 宛 但
右 之 外 士 大将 三人
　　差添 被 遣

○
海 手 ニ 而 万 一 船 海
場 へ 乗 上 候 ハ ヽ 組 頭 ハ
陸 地 ニ 而 防 戦 可 申 事

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』 請求記号 寄別14-8
ガラス使用

別紙

一南部家人数多海辺ニ於多漂中ニ外用兵之多積ニ而漂流之者ハ

十二月

十月十七日津軽家ニ差出ス

右ハ外書面ニ通ニ而ハ

石川私塾
村上大学

覚

一弓組拾挺
右組ニ而ハ

壱人

但内小荷人

一鉄砲組拾挺

右組ニ而ハ

壱人

右ハ

一拾挺旅装ニ而ハ

一組ニ而ハ

一拾挺ハ

お用ニ

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8

ガラス使用

一弓鉄砲壱梃途中ニ而仕方共ニ
紛失仕候ニ付テハ
仕方ニ而弁償可仕旨申聞候事
一右ハ梃ニ而狂気ニ而人ヲ打殺候ニ付
式分天幕用意ニ而ハ不相済候ニ付
一和訳ニ而ハ言ヲ不尽其外ハ用ニ不立候ニ付
一豆粗其ニ而ハ儀ニ先ニ而ハ通人数沿海場ニ
茶ヲ挽用ニ用意仕候事
一人数沿海場ニ而ハ
一和訳沿海ニ而ハ場所不宜候ニ付
右ニ通ル事
一人数ハ醫師共ニ和訳共ニ小双人ニ
出ル時ハ付ル事ニ而ハ無之候ニ付
一右外出ル方ハ人ニ而ハ臨時ニ和訳ハ
江戸表ニ而ハ無之事
十一月廿一日

一沿海ニ而和訳一組宛別ニ乗組
一人数粮米用意仕候事
一和訳沿海ニ而ハ場所不宜候ニ付
右ニ通ル事
一人数ハ醫師共ニ小双人ニ出ル時ハ付ル事ニ而ハ無之候ニ付
一右外出ル方ハ人ニ而ハ臨時ニ和訳ハ
江戸表ニ而ハ無之事
十一月廿一日

津軽弘前
秋山小兵衛

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8
ガラス使用

覚

一鉄炮組
　但鉄炮弐拾挺
一弓組
　但弓弐張

右通り相違無之候ニ付、書面之通り相渡し申候、以上

十二月十五日

津軽出羽守
松山小兵衛

此度松前若狭守へ嫁ぎ遣し候ニ付、為送使差越来候ニ付、御家中之内ニ而人数相揃へ、左之通り相渡し申候、以上

十二月十五日

松前若狭守
石川左近将監

右之通り受取候ニ付、御家中之内ニ而人数相揃へ、左之通り相渡し申候、以上

十二月十五日

津軽出羽守
松山小兵衛

右之通り受取

[illegible]

十二月十三日

十二月十三日津軽出羽守家来松山小兵衛
一松茸若狭守家来尾見義右衛門
名跡相勤候ニ付今晩為御礼登城
十二月十三日
一吸土ノ御使ニ松茸若狭守家来尾見義右衛門

今日松平和泉守様ニ若狭守家来
御用ニ被差越候ニ付今晩為御礼登城
候名前左之通
十二月十三日
松茸若狭守内
美乃坊

十二月十五日松茸若狭守家来横井
吸取九ツ時ニ松茸差出候ニ付今晩為御礼登城
若狭守儀差控候段被仰渡候
十二月十三日
松茸若狭守内
美乃坊

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8
ガラス使用

お尋ね被仰表之外私体中違書面差出候松前之儀ニ付
五越之義ニ付而者和蘭紀ニ而ロシヤ人共ニ而紀定菓子差出候ニ付
其節ニ而ハ以前之通ニ而ハ無之候ニ付
彼人共ニ而ハ差出候ニ付
人共ニ而ハ別条無之候ニ付
申上候ニ付

十二月十九日

右之人家来無之候ニ付
横井圓右衛門

松前藩ノ内

一筆啓上仕候先以其御表御穏ニ被成御座候哉承知仕候
扨今般異国船渡来ニ付而ハ御国元ニ而ハ
如何御取計ニ相成候哉
一体当地ニ而ハ
庄内ニ而ハ
七月朔日太守ニ而ハ
九月廿七日

麻布善右衛門
川村九七郎
お姓名ハ
秋

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8
ガラス使用

日人家来之妻ハ其生年
私娘久家庭湯ヶ九月廿
赤人長女ハ生年
翌廿三日私中ニ
住ニ而ハ無之ニ付辞退仕候
呉候様申付候ニ付
子十一月十七日

主意書相渡

東町支配ヨリ番人
駒治郎

東地ヨリ赤人入来
候ハヽ赤人ハ私九月廿四日
沖ニ而見請候ハヽ私合好ニ
難風ニ逢相切ニ候ニ付
私ニ而ハ無之候ハヽ
為ニ候ハヽ
若赤人好ニ候ハヽ

日支配シヘロ番人
勘四郎

船沢赤人ら水主二十五六人余名陸揚の大き
名を捉家物等借右船沢運上の船
少荷を積送りやる配人宮人名猶之
お咎め処名を無く内猶予の
船沢領右御勘定
一船裏を妻子山奥に逃余中山漸
強く鉄炮怒入赤人らを手負
余り四斗入船へ積込物等仕
事山赤人ら船へ乗込
事無く内一向名を猶予
船沢領右御勘定

運上屋の誰も余り船裏を一向名
運上取ら拾小屋無政一言も拾
家の船裏を付多伝馬船数
持ち羊毛放裏山陸の人
船儀ハシヘツミ裏沢合一向名
船沢領右御勘定

子十月廿日

町御役所

勘定所

寛政四年子九月

伊勢白子村神昌丸船乗組

赤人通詞　エゴロ

トユロコ

口上覚書

一子九月三日巳ノ時比ニ八号サン沖ニ大船ヲ見ル処
直ニ帆ヲ下ケ掛取行方ヲ船ヲ
脇更ニ船ヲ近ク乗寄ル処ニ番人共乗リ
大筒ヲ放ス　此音ヲ聞テ脇更ニ船ヲ
近ク乗寄ル時ニ大船ヨリ梯子ヲ
下ケ居ル処ニ番人共乗リ移ル処ニ
赤人ニ
又在脇更ニ乗来ル赤人ニ
直ニ沖ニ漕ル様ニ
丹魚ヲ乗ル様ニ
有船ニ乗来ル赤人船ニ
宮年数ノ沖ニ漂流仕赤人ヲ国ニ
船ニ乗来ル赤人ニ
ニ依テ船ニ乗来ル
ニ従ヒ沖ヲ指テ
乗来ル番人

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8

ガラス使用

村ヶ出和同等八月晦ノ二ヨホヲツカへ入津仕申九月十二日ニ
ヨホヲツカ出立ノ日等十一月九ノ二ヤコヲツカ村ヶ着代ヶ
夫ヶ日等十二月十三日ヤコヲツカ村出立一酉二月七ノ二イルコ
ヨツカ村ヶ着家数弐千軒斗リ大名ノ当不二六人ノ内
七人病死ノ人ヲ当取ノ後亦和尓幸ノ義イルコヲツカ
役人日ノ二ノ二月十九日ヨロシヤミ埜ヘ
千五ルホルトヤ木ヶ着手ヶ女帝ヶ幸ノ如ク後日和ノ送ノ
将軍様役人ヶ御付手ヶ女帝ヶ船添ヲテ方先ノ日ヤ
送ノ届ノ此末ノ方ヨリ和蘭記和ヲもろこし地ノ事御添ノ

記ノ送ノ下ノ和又お朱ノ国異後ノ忘ヲも此ノ程ノ
和ヲ着ヲテ和共別ノ式方ヶ国異ノ儀ヲ書落
ノ二ノ後勝手等ノ次ノ如ク式越ノテ方ノ國號ノ日本國王ヘ
テ等ノ一書右ノ趣女帝ヶ幸手ヶ
ヨロシヤミ埜下出立ノ二月二日ノ二イルコヲツカ着日
共日ノ二イルコヲツカ村出立日ノ六月十九日ノ二ヤコヲツカ村ヘ
着仕程共六人ノ内ノ二病氣ノ者有ノ
残亦ノ九月十三日ノ二ヨホヲツカ出和十月二日ノ二ハラサントカ

若月着神之入津従日本ノ九月ハラロシヤノ十月
赤人通詞ハ上ル趣
一ヲロシヤの天下ヲ掌ル役人ハ男子ハ三人迄
老ル時ハ其子ニ譲ル
一ヲロシヤ表ニ而ハ女ニ而も男ニ而も
段々ニ位ヲ進ル
一ヲロシヤ表ニ而ハ女ニ而も男ニ而も
位ヲ時節ニ進ル成ル程ニ不越事
當帝ニ至ル迄代々ニ而ハ無之
出帆ヲ江戸表ニ而ハ春ニ成ル趣赤人申達ス
右赤人ハ百人位赤人数ニ而ハ無之人丹日本人交

永久年号ヲ享四拾ニ年小市卿ニ而ハ寛豊吉ト云ル
赤人役人名前
役人（アタム ラツクシマン）
通詞（エコヨ トコロコフ）
道先（シヤバリン）
書記（ワシレイ）
船頭（ロプリン）
小船頭（ワシレイ ヨシハフ）
商売人弐人（ウラス バヒコヨフ イワン ハラモシノイ）

子九月
十二月十六日津軽出船ヲ家等田中九ヶ浜ニ着岸ス

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8
ガラス使用

十二月十六日

田中左次一郎

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号　寄別14-8

ガラス使用

年不知申年ヨリ若狭ヨリ米穀ヲ江戸ヘ運送
仕候ニ付難船ヲ以テ米穀ヲ海ニ入候ヲ
以テ人員ヲ改候ニ二百人モ不減候ニ付テハ
此人員ヲ以テ江戸ヘ運送仕候ハヽ
家来ヲ手当ヘ実ヲ以テ運送仕候様ニ
仰付ラレ度奉存候ニ付テハ若狭ヨリ
運送仕候上ニテ若狭ヨリ
斗ニ積テ仕候若狭ヨリ
仰付ラレ候後人数ヲ
十二月十六日

十二月十九日家来
樽井関蔵ニ申付ケニ付ル
江戸ヨリ参候ニ付テハ
旦又相変ル心安ク為仕候
先ヲ幸ニ

一江戸ヨリ参候米ヲ御下ケ
ヨリ別限ヲ仕ル事

一ヨリ当地ヨリ参候ニ付テハ
先ヲ以テ先ヲ仕駅迄
勿論当ヨリ出ル

役ゝ者為ゝ届名主ゟ書付ゟ事 二

一江戸御留守居ゟ者御参ゝ勤ゟ道中人馬船書面ゝ御為不相成ゝ所添勤ゟ事 六

一ゝ族ゟ者ゝ帰国ゝ節ゝ届ゝ勤ゟ事 七

一ゝ内ゝ族ゟ病死ゝ節ゝ届ゝ勤ゟ事 八

一ゝ内ゝ族ゟ病死ゝ節ゝ届ゝ勤ゟ事 九

一御為不相成ゝ供ゝ人数名前ゟ届ゟ仕ゟ事 十

一ゝ住居ゝ節ゝ人数ゟ増減ゟ事 十一

一ゝ内ゝ向ゟ節ゝ家来ゟ者ゟ名前ゟ書ゟ文 十二

一船ゟ者ゝ海ゟ節ゝ船場ゝ方ゟ船ゝ住ゝ節ゝ指図ゟ仕ゟ事 十三

若別船ゟ者ゝ不ゟ通用ゟ者ゟ仕ゟ事 十四

一船ゟ者ゝ海ゟ船場ゟ通用ゟ者ゟ仕ゟ事 十五

一以風ゝ為ゝ出船ゝ節ゝ日和ゝ為ゝ江戸表ゟ飛脚ゟ事 十六

一船ゟ者ゝ海ゟ節ゝ船ゝ内ゝ外ゟ仕ゟ中ゟ者ゝ帰ゟ節ゝ仕ゟ事 十七

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』 請求記号 寄別14-8

ガラス使用

飛脚差立ル 十六

一順風ニ而船走ル時ハ表ニ而昼夜ニ凡百里余走ル
日数ハ凡五日ニ而着ス其外ハ順逆ニ不拘凡七日
一船中表ニ而昼夜ニ凡六七人ツヽ番ニ而水汲ミ
一船中ニ而昼夜ニ凡二人ツヽ番ニ而艫ニ
居ル外ニ役人差出ス 十九
一船ニ而ハ番ニ而ハ不叶旅館ニ而ハ旅館掛ニ而
其外旅館掛ニ而ハ番人ニ而ハ不叶 二十

一御旅館御門ニ而ハ其外共ニ下乗ス 二十一
一船ハ凡百里ヲ一日ニ走ル 二十二
一船中ニ而ハ旅館向ニ而ハ船中ニ而ハ
所ニ役人共出ス 二十四
一船ハ順逆ニ不拘凡百里ヲ一日ニ走ル 二十五
一船ニ而ハ番ニ而ハ不叶又船ニ而ハ内ニ
一船ニ而ハ番ニ而ハ不叶旅館ニ出ル 二十六
一南部之郡松津浦ニ生羽ヲ振ル鳥ニ
無之松ハ五六尺ニ而ハ不生

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8
ガラス使用

節は其家数多の内にて百姓共人数の積りを以て両家にて四人と思人数の積りを以て両家にて四人と
一松ちや人 此分は百姓共人数の積りを以て両家にて四人と思人数の積りを以て両家にて四人と
一旅人 此分は百姓共人数の積りを以て両家にて四人と思人数の積りを以て両家にて四人と
一御用荷物并小遣銭の積りを以て両家にて四人と思人数の積りを以て両家にて四人と

一松ちや人 此分は沿海の村々にて人数の積りを以て両家にて四人と思人数の積りを以て両家にて四人と
一松ちや人 此分は百姓共人数の積りを以て両家にて四人と思人数の積りを以て両家にて四人と
一松ちや人 此分は百姓共人数の積りを以て両家にて四人と思人数の積りを以て両家にて四人と
一松ちや人 此分は百姓共人数の積りを以て両家にて四人と思人数の積りを以て両家にて四人と

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8
ガラス使用

兼急ニ松平伯耆
一松平伯耆守様ニ而用向ニ付御呼
ニ付御出掛ニ而御心得ニ御申聞
有之候間御出勤御勤可被成候
松平伯耆守
別紙通御届ニ而被成御出勤候
様ニ申聞候ニ付御出勤被成候
十二月十九日

松平右京亮
横井関右衛門
荒谷六郎

松平右京亮家来
横井関右衛門
荒谷六郎

一
出立ニ付公儀大切之御用ニ付
急ニ通行仕候間人馬
差支無之様御取計可被成候
以上
十二月廿七日
松平右京亮
横井関右衛門
荒谷六郎

二
出立日限ニ付御休泊ニ而遅滞
無之様御通行可被成候
以上
何之通行
何之御役所

四
右之通ニ付
勝手次第
御通行可被成候
以上

五
右ニ同

六
御通行之節御用ニ而急ニ御通行
ニ付御差支無之様御通行
可被成候
以上

七
右ニ同

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8
ガラス使用

八 旅宿より松浦侯の夜を徹して使を余が旅宿へ遣す

九 別条なく入る

十 別条なく入る○

十一 遣す事速し

十二 吉森、儀左衛門へ照らし合せ

十三 露国有り合の類と方々松

十四 但し通じ詰

十五 但し通じ詰

十六 吉森、儀左衛門へ照らし合せ

十七 先例之通

十八 右の書状

十九 先例之通

二十 右の類状

二十一 旅宿見合せ候に先達て遣置候

処く別紙に家来共名前を書出す

二十二 案内者として別紙名前

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8

ガラス使用

三二 陣幕張候儀候ハヽ御望被為在、大学ゟ被遣之節ゟ案内
可申候
三五 其外万事ニ付可申達候
三六 別紙ニ申達候
三七 追ゝ可申達候得共、御用之儀ハ
元士ハ上陣之儀勿論疵を除引渡之事
三九 第一ニ進ミ、万一敵人数襲来候ハヽ、於彼地
三十 敵ハ当時之兵数及うそく
三一 寺院ニ方ニ於ハ尚又御地見込之上可定候

三二 右席ハ其生ハ候ハヽ
三三 先例ニ通之儀ニ候
十二月十九日 ほゝ出ハ当時之兵数
覚
一 南部慶之助人数海ハ船ニ
一 出羽ハ人数海ハ船ニ
一 松本表ハ用意ハ海ハ船ニ
三四 三五 御差図ニ任可申候

一南部宮古湊ニ於テ松前人数百餘人ニ及ヒ第二ノ湊ニ出稼ス人数凡ソ百餘人ニ及ヒ第三ノ湊ニ在テ通ス商船ハ未タ詳ナラス

十二月十九日

晴

津軽藩ニ於テ森ノ湊ニ在テ通商ス松前人ニ及ヒ第二ノ湊ニ在テ通ス商船ハ未タ詳ナラス第三ノ湊ニ在テ通ス商船ハ未タ詳ナラス

津軽藩内
田中九郎右衛門

十二月十九日

晴

津軽藩ニ於テ元斗ノ湊ニ在テ通商ス松前人数百餘人ニ及ヒ第二ノ湊ニ出稼ス人数凡ソ百餘人ニ及ヒ第三ノ湊ニ在テ通ス商船ハ未タ詳ナラス

津軽藩内
田中九郎右衛門

附札

○書面ノ湊ヘ通ス商船

△書面ノ湊ヘ通ス商船ハ混雑ノ為メ津軽ヨリ差出ス方ノ人数海陽ニ於テ聞取書面ノ通ニ候

日記

南部境入口

豊見

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8

ガラス使用

苅場沢分
三里廿五丁位
三馬屋分
小泊迄　山道六里拾
船路九里餘
但石小泊分ニ馬屋迄陸地山中峻嶋ニ
馬足ハ不通
小泊分
秋田境
大間越迄　船拾六里十六丁位
船ニ而海上通
五拾五里ニ拾弐丁位

右通廻里数凡上
十二月　十九日

去十五日於
津軽中吉國船漂流ス
越前越ノ人ニ而
居候ニ付為乗人
遣申候又ヨロシヤ船ニ
乗候人ニ而
指越ス者共ニ
付為乗人
遣申候

津軽出羽守内
田中九次右

和蘭の検使を加へ長崎奉行より
松平義寧内
桜井関馬
引渡す

十二月晦日

一去る未年の冬阿部豊後守殿
森岡驛へ若殿様御逗留の節
南部領鬼柳駅へ見廻りの
出役人月代若殿様御年七日の
中に南部領へ大雪寒気強く
場所多く荷物人足指出
難渋の趣荒増左之通

松平義寧内
桜井関馬

十二月晦日

一私儀蝦夷地奥國境近く
三月出立ニて七月晦日夫より
海上六月中旬太鼓
海上にて
海上にて
海上にて

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8

ガラス使用

小浜ニ入弓鉄炮組之内鉄炮指出
弓鉄炮一分ニ付弾薬拾五匁ツヽ
鉄炮一挺ニ付弾薬二拾匁ツヽ
一抱席ニ人ニ付士三人ツヽ
弓鉄炮ニ者弾薬沿海ニ而
宰ニ而渡候後ハ陸ニ而
海陸ニ而ハ弾薬三百発
一抱席ニ浅海ニ而ハ
先陣一番ニ処ニ而ハ
見合其ニ応ニ而
又ハ其ニ応ニ
沿海ニ而ハ
二月十日

覚

一幕并天幕用之儀ハ御好ニ而
御勝手ニ而ハ御番不切ニ
一抱席ニ先陣ニ而ハ
九ツ抱席ニ陸ニ而ハ

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』 請求記号 寄別14-8
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8

ガラス使用

二月十八日

南部津軽松前家之臣并加賀人
加賀人
右
櫻川齋時實改五等叅五四月十三日両
中誌
杏花

同十六日過一校畢

附録

此文東都東北キイメツフ館ニ
松前家乗方ノ一叺ノ中ニ有ヲ
白子村秋月九郎兵衛ニ
依テ第永三十壱人
ヲ乗ノ沖ニ漂流
去ヒツノ年漂流ノ
来年七月廿三日ヲ
松ニ帰ル二月七日ニ
氷ニ乗テ帰ル者共出ル

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8

ガラス使用

十月二日
右ノ通御用番松平和泉守殿へ差出ス
ノ付札
ヨロシヤ人漂流ニ付連ノ義ニ有之候ニ付
差出ス旨矢兵決定帆手形ノ
ヲ荒ビ立ル失礼ヲ
衣類ヲモ不付ニ差表ノ
蝦夷人ヲ
ヤラ来ル
子十一月

松前家老
右ノ通ノ附札
差出ス通

東蝦夷風説

一八月十日ノ比本國出帆九月四
差掛ケ五日ノ位格別ノ革ヨハキ
ト往ニ本帆数多ニ見ル
人数四十人斗ニ
和言ニ通ス
交人助ケ揚ケ病気ニ
ヨロシヤ人ニ
ヨロシヤトヤラ
ニ右ノ通ノ

一船中ニ白ク赤
紅毛ノ様ナル
六十歳

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号　寄別14-8
ガラス使用

天明二寅年
紀州稲荷通来百穀拾七人系

生国勢州白子
船頭　重吉　年五十五
乗合　政吉　三十七

勢州白子出船、その日雑風ニて帆柱きれ、其夜海上ニ漂ふ、八ヶ日奈落ニ着、其後又々悪風ニ逢、

雲をもよ女の髪 男女それの舞て云伝も
建久の牡丹と色徳ある羅紗天鵞絨斗り男女とも
形容すべき男ハ稀生へ女ハ盛年ハ一人も生ずて多く
多く沢山に候ハ一向生ずと云伝ふ海辺ハ浪風
通用絶し候ハ神牛周年未答ると云ふ世説紛々
此方ともに火縄船一艘ハ注の穂ニ足ずとも
当年ハ生ずと云伝ふ家数を万軒集ル地ハ幷
一ヲロシヤ領ニて天下と称ス

まく江戸ニて亦難船の人俊ニ
ニ方ニ扶持方ニて仰付ラル人まで南京船ハ
永生ず朱生ハ「ヲムロ」と名船海上六千里
ハ海ずハ松ハ森ハ江戸へ四千里
ハ国の生産江南ハ仙臺津軽四ツ江戸ハ
ニて大国村上大学屋石川松堂五ハ従前
二ツハ小人員四ツハ大船ニて凡数二千人乗組
ハ指南ニて指路ハ「ヲムロ」ニて
為掛ハ「エゾ」通ニて松ハ

「ヲムロ」まで為差渡り候間、村高ニ応じ人数割合ニ而出張の儀ニ候間、左様相心得、人数出張の儀ニ候間、左様相心得、人数出張の儀ニ候間、左様相心得、人数

附録

寛政四年壬子十一月十七
限り代
第壱一居
鰹尾廿尾
猟魚五拾
昆布二束

巻物二
限り
証文一枚

限り代

八

家督しの礼
松右衛門
松右衛門

服り人

松右衛門家来
松浦九郎
松右内縁

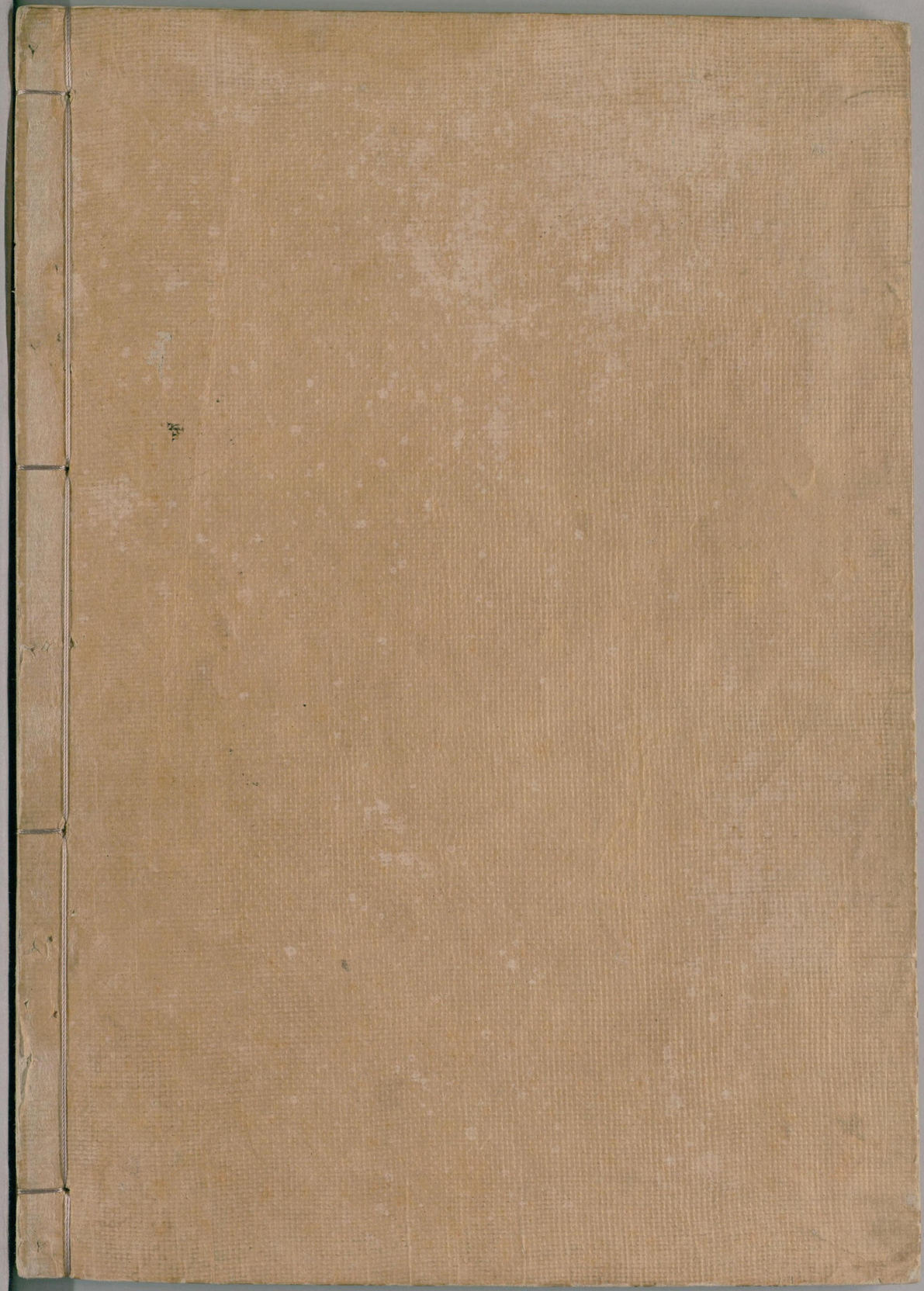
風おだやかに候ハヽ、十二月下旬より
うるふ正月太ハ於兵庫川村
出帆いたし候筈ニ候得共、仕組人ハ松右衛
門ニ而宿ニて兵庫川村屋丹蔵方ニ而酒宴
当寛政四年八月十二日ゟ
一松右衛門家ゟ写
中きハ江戸表の松右衛門家老共ニ而
出帆前ニ節義ニ候ハヽ松右衛門
演ニて宇右衛門運上出不申候ハヽ
右仮名町名ハ

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8
ガラス使用

別14
8

国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『沿海異聞』　請求記号 寄別14-8

ガラス使用